国土審議会　半島振興対策部会（第６回）

２０１３年6月２１日

【長崎地方振興課長】　　それでは、ただいまから国土審議会第６回半島振興対策部会を始めたいと思います。

それでは安島部会長、進行をよろしくお願いいたします。

【安島部会長】　　はい。それでは早速、始めたいと思います。

前回は昨年の秋に和歌山県にお邪魔いたしまして、半島地域の現状を視察して、部会を開かせていただきました。和歌山県に大変お世話になりました。ありがとうございました。現地の事情を見て、その後、会議を開きました。大変意義のある部会になったかなと思っております。

それでは、最初に事務局より、本日の会議の公開の取り扱いと資料の確認をお願いいたします。

【長崎地方振興課長】　　まず、会議の公開についてでございますが、国土審議会運営規則第５条の規定により、国土審議会の会議は原則として公開とすることとされております。これは、同運営規則第８条２項の規定によりまして、当部会にも準用されることとなっております。したがいまして、当部会でも本審議会の方針に従い、会議、議事録ともに原則公開することとし、本日の会議にも傍聴の方が入っているところでございます。この点について、あらかじめご承知置きいただきますようお願いいたします。

次に、お手元の資料を確認させていただきます。かなり厚い、大部の資料になっておりますが、資料１から資料９までございます。それから参考資料として、参考資料の１から４までございます。もし不備、不足等がございましたらお知らせいただけるようお願いいたします。

続きまして、今回がこの部会に初めてのご出席の委員の方もいらっしゃいますので、改めて委員を紹介させていただきます。

まず正面に、安島博幸部会長でございます。

【安島部会長】　　安島です。よろしくお願いします。

【長崎地方振興課長】　　それから、安島部会長の向かって左側、沖大幹委員でございます。

【沖委員】　　沖でございます。おはようございます。

【長崎地方振興課長】　　続いて、今度は部会長の右側です。原田昇委員でございます。

【原田委員】　　原田でございます。よろしくお願いします。

【長崎地方振興課長】　　続きまして、向かって左側、岡部明子特別委員でございます。

【岡部委員】　　岡部です。よろしくお願いいたします。

【長崎地方振興課長】　　今度は右側に参りまして、鈴木輝隆特別委員でございます。

【鈴木委員】　　鈴木です。おはようございます。

【長崎地方振興課長】　　それからまた左に行きまして、田中達美特別委員でございます。

【田中委員】　　江田島市長の田中です。よろしくお願いします。

【長崎地方振興課長】　　それから右に行きまして、中嶋康博特別委員でございます。

【中嶋委員】　　中嶋でございます。よろしくお願いします。

【長崎地方振興課長】　　また向かって左に行きまして、野口智子特別委員でございます。

【野口委員】　　野口です。よろしくお願いします。

【長崎地方振興課長】　　また、仁坂吉伸特別委員におかれましては、本日は代理の方が見えておりますので、ご紹介いたします。和歌山県企画部地域振興局の若林局長でございます。

【仁坂委員代理（若林）】　　若林です。よろしくお願いいたします。

【長崎地方振興課長】　　なお、鈴木委員におかれましては、学務のご都合で、会議の終了前にご退席と伺っております。

続きまして、事務局側の出席者をご紹介いたします。

まず、こちら中央、渡延審議官でございます。

【渡延審議官】　　渡延でございます。

【長崎地方振興課長】　　私、地方振興課長の長崎でございます。

それから右手のほう、半島振興室長の金子でございます。

【金子半島振興室長】　　金子でございます。よろしくお願いします。

【長崎地方振興課長】　　なお、渡延審議官におきましては、本日国会対応の予定が急遽入りました関係で、会議の途中で退席させていただきますが、よろしくお願いいたします。

最後に、本日は本半島振興対策部会の定足数を満たしておりますことを念のために申し添えます。

それでは安島部会長、引き続き進行をお願いいたします。

【安島部会長】　　それでは、議事に入ります前に、渡延審議官よりご挨拶を頂戴したいと思います。

【渡延審議官】　　それでは事務局から、部会の開催に当たりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

委員の先生方におかれましては、大変ご多用中お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。平素から半島の振興をはじめとしまして、国土交通行政に多大のご支援、ご指導を賜っておりますことに、この席をお借りしまして改めて御礼を申し上げる次第でございます。

この部会におきましては、平成２７年３月末の半島振興法の期限到来を踏まえまして、昨年の６月から、これまでの施策の総括と次なる振興施策の方向性について検討すべく、会議をスタートしたところでございます。冒頭、座長からご紹介がありましたとおり、昨年の１１月には和歌山県にいろいろご手配をいただきまして現地で開催し、合わせて施策対象地域の実情をつぶさに見てまいったところでございます。

こうしたものを受けまして、本日の部会の議題は、半島振興施策の評価でございます。これまでも委員からご指摘が出ているとおり、今後の施策の方向性を考える上で、これまでの実績、積み重ねの評価は大変重要な論点であろうと考えております。

このため、本日の開催に先立ちまして、関係道府県に各半島ごとの計画の進捗状況評価を実施していただきました。また、関係する市町村にも進捗状況をお聞きするなど、状況を聞かせていただいております。そうしたものが本日、この厚い資料になっておるわけでありますが、これまでこうやって関係者から伺った半島振興施策の進捗状況、現時点での対象地域がその結果、どうなっているかといった声を踏まえて、半島振興施策の今日的な必要について、大所高所からご議論を賜りたいと考えておるところでございます。

委員の先生方には、活発なご意見と忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げまして、ご挨拶といたします。本日はよろしくお願いいたします。

【安島部会長】　　それでは、本日の議事に入らせていただきます。

お手元の議事次第をご覧ください。本日の議題は、半島振興施策の評価等についてと、その他でございます。

事務局よりご説明をお聞きして、その後、ディスカッションをしたいと思っております。それでは、事務局からご説明をお願いいたします。

【金子半島振興室長】　　それでは説明させていただきます。まず、資料２から資料５に

つきまして、一括して説明を申し上げます。

今回の部会におきましては、これまでの半島振興施策の評価と、半島振興の意義、必要性といった点についてご審議いただきたいということで、準備を進めてまいりました。半島振興はご存じのとおり、各道府県が半島地域ごとに半島振興計画を策定し、それで広域的かつ総合的な対策を進め、国はそれを支援するという枠組みでございますことから、この半島振興施策の評価に当たりましては、各道府県にそれぞれの半島振興計画の達成度や課題についての評価の作成を依頼いたしました。また、半島地域内の市町村の首長に対して、半島振興施策の進捗度、充足度等を尋ねるアンケートを行いました。ご多用中に協力していただいた各道府県、市町村には、この場を借りて御礼申し上げます。

事務局からの説明といたしましては、まず、これらの結果についてご審議いただく前提として、半島地域の内外の格差がどうなっているのかといった点について資料２で説明いたしまして、それから道府県の評価、市町村アンケートの結果を紹介した上で、ご議論のポイントになるのではないかと考えている論点についての説明をさせていただきます。

では、資料２からご覧いただければと思います。これまで当部会におきましては、昨年６月の部会では半島地域をめぐるマクロ的な指標について概況を説明申し上げ、昨年１１月には紀伊半島での現地調査と合わせて、紀伊半島をケーススタディーとして、半島地域の中のさまざまな状況についてＧＩＳを用いた分析を説明申し上げたところでございます。今回は、かねてから当部会において、単に半島地域と全国を比較するのではなくて、半島地域の内外の格差はどうなっているのか、あるいは半島地域の中で根元と先端では状況にどういった違いがあるのかといった点について検討が必要というご意見もあったことを踏まえまして、人口ですとか交通アクセス、情報通信基盤、産業、生活環境整備といった項目について、半島地域の内外の比較、半島地域内の詳細な分析を行ったものでございます。

表紙１枚めくっていただきましたところに、地域類型についての説明がございますが、この中で、半島地域とそれ以外を比べる上で、いくつかの地域区分を設定しております。全国、それから地方圏は東京圏、名古屋圏、関西圏を除く地域。それから、条件不利地域の代表として過疎地域というのをとりまして、さらに場合によっては地方圏から過疎地域を抜いたところを、比較的条件のいい地域として見るという形で分析いたしております。

また、半島地域の内部でございますけれども、地理的な位置によって基部、中間部、先端部という分類に便宜上分けまして、それぞれについての分析をいたしておるところでございます。

では、まず最初の項目、人口から説明申し上げます。まず人口増減率でございますが、平成１７年～２２年の人口減少率は、半島地域はマイナス５．２％でございます。これは半島地域を除く地方圏のマイナス１．３％を上回る水準でございまして、過疎地域のマイナス７．１％ほどではございませんが、非常に人口が減少しているということでございます。これを半島地域内について見ますと、特に先端部においてマイナス７．１％という大きな人口減になっております。

次に高齢化率でございますが、半島地域、平成２２年の高齢化率が３０．２％でございます。これは過疎地域の３３．２％ほどではございませんが、半島地域以外の地方圏２４．３％に比べると、かなり高齢化が進んでいるということでございます。また、半島の中を見ますと、先端部ほど高齢化率は高くなる傾向にございます。

次に生産年齢人口でございます。これは先ほどの高齢化率のある種、裏返しでございますけれども、半島地域は平成１２年を１００とした指数で見て、平成２２年には８６．１まで下がっているということでございます。これは半島地域を除く地方圏の９２．４と比べますと、かなり下がっているということでございます。特に半島地域内で見ますと、先端部において８１．９ということで、過疎地域での平均８２．７よりも低いということになっております。

次に、人口増減の要因を自然減少と社会減少に分けて、半島地域以外の地方圏と半島地域で比較したものでございますが、自然減、社会減ともに半島地域のほうが大きな減少になっております。特に差というか倍率で見ますと、自然増減率もさることながら、社会増減率において半島地域はそれ以外の地域と比べると大きく人口が減っているということで、社会的な流出が続いているということではないかと考えられます。

その次でございますが、いわゆる出生コーホート、同一のコーホートの人口推移でございます。ちょっと表が分かりづらいので恐縮なんですけれども、５年間に生まれた１つの人口集団、コーホートについて、それぞれの年齢が上がるにつれて、その人口がどのように変わっていっているのかというのを見たものでございます。例えば昭和４６年～５０年生まれについては、１０～１４歳のときの半島地域内の人口を１００とすると、それが１５～１９歳には８２になり、２０～２４歳には５８になり、それから２５～２９歳になったときには６３というふうに、少し戻るという傾向でございます。これはあくまで人口を指数化しておりますので、他地域で出生した人の転入とかも含めた数字でございます。

これで見ますと、どの年代においても２０～２４歳のところまでに進学、就職によって

６割ぐらいに減少するという傾向は共通しているわけでございますが、その後のＵＪＩターン等によって半島地域にまた戻ってくる、あるいは移住してくるという傾向は、かつては２０歳代後半で６３まで戻っていたものが、昭和５６年～６０年生まれについては、５９までしか戻っていないということで、やや回帰傾向が弱まっているのではないかと考えられます。また、その次の昭和６１年～平成２年生まれについては、流出自体がちょっと大きくなっている可能性があるなということを今、考えているところでございます。

次に、将来の人口推計でございますが、これは国立社人研の一番新しい地域別推計を用いて、半島地域内の将来人口を年齢別に見た結果でございます。人口全体は、平成２２年から３０年間で３３．２％の減少、約３分の２になるということでございます。これは、同期間の全国の人口減が１６．２％という推計でございますので、かなり大きな人口減でございます。

その内訳を見ますと、高齢化率は４１．９％まで増加すると。生産年齢人口の割合は４８．６％まで下がるということでございまして、いわゆる老年従属人口指数、高齢化率を生産年齢人口で割ったものでございますが、これが２０１０年の５２から、２０４０年には８６．２まで上がるということでございます。半島地域以外の同一県内の平均ですとか、あるいは半島地域を除く地方圏の平均と比べると、高齢化率が高いということになっております。

以上が人口関係でございます。続きまして、交通アクセスの面についての状況をご説明いたします。まずは高速交通施設からのアクセス時間でございます。これは半島地域の指定のときに条件として見る３つの施設、高速道路のインターチェンジ、空港、新幹線駅へのそれぞれの所要時間を、半島地域の市町村の平均と、半島地域を有する同じ道府県の中の地域で半島でも過疎でもないところとの比較をしたものでございます。１９７０年から、どちらにつきましても高速道路インターチェンジについては時間が縮まっているわけでございますし、空港、新幹線駅についても、データのとれる範囲において、時間はそれぞれ縮まっているわけでございますが、やはり半島地域ではない地域と比べますと、依然としてアクセスの時間の格差は残されているということでございます。

このアクセスの改善について、例えば道路が整備されたりといった形で時間が短縮されるわけでございますが、それを半島地域の内部での時間短縮と、半島地域の外部での時間短縮に分けて見たものが、次のページでございます。これは道府県庁から半島地域の最先端の市町村役場までの所要時間でございます。ちょっと絵が見づらくて恐縮なんですけれ

ども、例えば１９８１年～９１年の１０年間では、２３半島で所要時間は平均３分短縮しているわけでございますが、全ての半島で短縮があったわけではございませんので、短縮があったという結果になった半島について見ますと、１３分縮まったということでございます。

この１３分の時間短縮を、半島地域内での時間短縮と半島地域の外での時間短縮、この右の絵の青いところが半島地域内での時間短縮が占める割合、その下の白い部分が半島地域外での時間短縮でございますが、その２つに分けて見ますと、１９８１年～１９９１年の１０年間では、ほとんどが半島地域外での時間短縮であったということでございます。これが１９９１年～２００４年になりますと、時間短縮は２１分だったわけでございますが、そのうちの５分が半島地域内での短縮、１６分が半島地域外での短縮でございます。２００４年～２０１１年になりますと、半島地域内が６分半、半島地域外が３分でございます。こうやって見ますと、２００４年までは半島地域外の交通改善によるアクセス性の向上によって時間短縮している割合が多いということでございます。

次に、いわゆる災害の関係でございます。異常気象と半島地域の交通の関係でございますが、異常気象の際に通行が規制される道路の区間である異常気象時通行規制区間と特殊通行規制区間のそれぞれの中で、迂回路がない区間というのがございます。ここの区間を通行止めにした際には迂回路がないと道路管理者が考えている区間でございますが、その割合は、半島地域では異常気象時通行規制区間２８２のうち２０２、７１.６％。全国が５１.４％、半島地域外の全国は４９.１％でございますので、非常に迂回路がない割合が高い。特殊通行規制区間についても同様に、非常に高くなっているということでございまして、やはりこういった迂回路なしということは、孤立地域の発生の懸念等、災害時の交通の脆弱性があるということでございます。

次に、交通アクセスと産業振興との関係でございますが、これは全国データで恐縮なんですが、工場立地動向調査によりますと、高速道路のインターチェンジとの距離が近いほど工場立地件数が多いということでございますので、高速インターチェンジから遠い半島内はやはり不利になるということが、結果として出ているということでございます。

次に、地上デジタル放送も含めた情報通信基盤の関係でございますが、まず地デジの放送カバー率は年々上昇していて、全国との差も縮小しております。携帯電話、それから超高速ブロードバンドでございますが、携帯電話のエリア外人口率は、半島地域が２３年度末で０.２％、全国が０.１％ですので、半島地域においてもエリアの拡大は進んでおりま

す。また、超高速ブロードバンドの利用可能エリアも整備が進められているわけでございますが、全国が９７．３％であるのに対して半島地域は８８．４％ということで、まだ差が存在しております。

次に産業についてでございます。まず、産業別、年齢別の就業者の比率で見ますと、半島地域の中では生産年齢人口の大部分は第２次、第３次産業に従事しているということでございます。他方で、第１次産業については４０歳～６０歳、あるいは６５歳以上の層が大半を占めております。特に６５歳以上については、当該年齢層の中で全就業者に占める割合も高くなっているということでございます。特に若年層の就業の場の確保については、農林漁業も当然ではございますけれども、２次産業面での就業の確保というのが大変重要であると考えられます。

それをさらに業種別に見たものがその次でございますが、第２次産業については製造業、第３次産業は卸売・小売業、医療・福祉に就く人の割合が高くなっております。

次に農業の関係でございますが、この絵は農業地域類型別の総土地面積、農地ではなくて土地の全体面積でございますが、これを都市農業地域、平地農業地域、中間農業地域、山間農業地域という農業の地域区分によって分類したものでございます。中間農業地域、山間農業地域を合わせて中山間地域と呼んでおりますが、半島地域はその割合が８４．６％ということで、半島地域以外の地方圏とか全国と比べますと、１０ポイント以上高くなっているということでございます。こういった条件の中で、農業従事者が高齢化しているということもあり、担い手の不足とか耕作放棄地の増加等の問題が見られるところでございます。

次に建設業、製造業についてでございますが、全国を上回るペースでどちらも事業所数が減少しておりますし、全国に占める割合も低下しているということでございます。

またその次、開業率等でございます。実際に新しい企業がどれぐらい立地しているかという点でございますが、まず平成１９年～２３年の工場立地による雇用の増加を見ますと、半島地域において立地した企業は、雇用する予定であると言っている従業者数が４，９９９人、そのうち地場での雇用者数が３，２３６人でございます。割合で言うと６４．７％が地場、自宅から通える範囲での雇用をしているということでございます。全国値で見ますと５８．６％でございますので、半島地域では全国に比べて、工場が立地すれば、地域内での雇用の増加に貢献している傾向がやや強いということでございます。

他方で、いわゆる事業所の開業率は、平成１９年～２１年の３年間で見ますと、全国は

２．６％であり、半島地域を除く地方圏も２．６％でございますが、半島地域においては２．０％ということで、やはり開業率は低いという状況になっております。

それから次に、小売業の状況でございますが、小売業の事業所数は今全国でもどんどん減少しているわけでございますが、特に半島地域については平成９年～１４年、あるいは平成１４年～１９年の数字を見ますと、全国よりも減少率が高くなっております。また、商品販売額につきましても、全国的にもあまり振るわないわけではございますが、特に半島地域では、それ以外の地域と比べて非常に減少しているということでありまして、マーケットが縮小しているということが想定されるわけでございます。

次に、半島地域内の就業者の通勤動向でございます。これの絵の見方でございますが、まず基部、中間部、先端部と半島の中を分けまして、その中で青い色がついているところが、居住している市町村の中で従業している人の割合、例えば基部では６４．４％でございます。その上の枠の中に８．８％と線が出ておりますが、これが基部の中で他の市町村に行っている人の割合でございます。以下、中間部、先端部とも同じような表示をしておりまして、それぞれの間にある線は、それぞれの地域の出入りを示しているわけでございます。

これで見ますと、中間部、先端部については、自市町村内での従業者が７５％～８０％程度を占めていて、自市町村内での従業率が高いということでございます。また、自市町村外の半島地域での従業者が１５～２０％程度を占めているということでございます。他方で、基部におきましては、半島地域外に従業している、通勤している者も２４．０％ということで、結構高くなっているということでございます。こういうところから見ますと、中間部、先端部は半島外への通勤が難しいことを鑑みれば、やはり半島地域の中に就業の場所を確保することが必要なのではないかと考えられるところでございます。

次に完全失業率でございますが、半島地域をそれ以外と比べますと、完全失業率は高い傾向にございます。半島地域は前年で６．８％、同じ府県の中で半島地域以外の地域は６．４％ですので、０．４ポイントの差がございます。特にこれを年齢別に見ると、１５～３９歳といった比較的若年の層について、他の地域との間の格差が大きくなっております。

それから次に、観光振興の関係でございますが、近年、半島地域の中でも独特な地域資源が高く評価されてきております。いくつか挙げておりますけれども、例えば２００４年には紀伊地域がユネスコの世界遺産に登録されておりますし、ジオパークに関しても、日本のジオパークに加盟している地域、さらには世界のジオパークに加盟している地域がいくつかございます。日本で世界ジオパークに登録している地域は５地域ございますが、そ

のうち半島地域に関係するところが２地域でございます。それから、日本ジオパークは全体で２０ございますが、そのうち半島の関係が３地域ございます。また能登半島が、能登の里山里海ということで世界農業遺産に認定され、また今年、つい先だってでございますが、国東半島も世界農業遺産に認定されたということでございます。

そういった中で、半島同士の連携によって、そういった地域資源の活用方策を検討するといった取組も進められております。右に挙げておりますのが、渡島、津軽、下北、男鹿の４つの半島に共通してゆかりのある江戸時代の紀行家である菅江真澄の足跡をたどるということをコンセプトとして、地域の住民、ＮＰＯのグループ等が着地型のツアーづくりをやっているう事例でございます。

それから次に、生活環境整備についてでございますが、まず汚水処理人口の普及率につきましては、全国と比較して半島地域はまだまだ格差があるという状況でございます。また、救急医療機関へのアクセス性についてでございますが、下のほうに参考としてカーラーの救命曲線を挙げておりますけれども、時間が経つにつれて重大な疾病における死亡率が高まっていってしまうということでございますが、救急医療機関へのアクセス時間が３０分圏内の地域は、全国は７１．８％の人口割合であるのに対して、半島地域は２１．６％ということで、かなり大きな差があるということでございます。

以上は、まず地域の現状でございます。

次に、資料３について説明をいたします。これが、関係道府県にそれぞれ半島振興計画の進捗状況の評価をいただいたものをまとめたものでございます。今年の４月に実施いたしまして、半島地域を有する２２道府県全てに作成を依頼いたしました。評価の方法でございますが、関係道府県が半島振興計画の計画項目ごとに、計画を作成した平成１７年からの記載した事項の進捗状況をどう評価するかという点について、３段階で評価すると。それから、現時点においてどういった課題が残っているのか、それから最近重要度が増している課題は何かについても、併せて記載を求めたものでございます。

見方でございますが、それぞれのページに円グラフがございます。円グラフの一番濃いアのところが、各種取組が順調に進捗して状況が改善したことで、計画事項をほぼ達成というもの。次にイとして、中間の色でございますが、各種取組が進捗して状況は改善しているが、計画事項の達成に向けた課題は依然として多いというのが真ん中でございます。それから一番色が薄いところが、各種取組は実施しているものの、状況の改善はあまり見られないというものでございます。

その下にある進捗状況、課題については、それぞれ各県から回答のあった内容の中から代表的なものを取りまとめたものでございます。まず、基幹的な道路、港湾、空港等の交通施設、通信施設の整備でございますが、まず道路についてはご覧のとおり、ほとんどの道府県がまだ課題が残っているという回答でございます。進捗の状況としては、道路整備は一定程度進捗しているが、なお課題が残されているということでございます。

それぞれの状況を見ますと、下北地域については計画の中で、中心であるむつ市への１時間交通圏の形成というのを挙げているわけですが、まだ実現していないということでございます。それから、男鹿地域については同じように、高規格幹線道路のインターに３０分以内、最寄りの空港に８０分以内等々の目標を設けているわけでございますが、それはまだ達成していないということでございます。　三重県の紀伊地域につきましても、主要都市間をどこからでも３時間以内という目標が実現していない。和歌山県につきましても、半島３時間交通圏の形成にはなお課題があるといったことでございます。

残された課題等でございますが、まず道路改良率が低いといったことで、半島地域外に比べて依然として整備水準に格差があるという点。それから、災害発生時における幹線道路のリダンダンシーの確保という点。また、半島地域には結構、原子力発電所がございまして、そういった原子力災害に備えた避難ルートの設定といったことが課題として挙げられております。

次に、鉄道、バスの関係でございますが、これは道路に比べますと進捗が高いわけでございますけれども、内容としては、沿線市町村や関係事業者の連携した地域の交通に関して協議する場を設定するなどを検討しておりますということでございます。それから高速化や増便といったことについてもいろいろ要請等を行っているのでございますけれども、まだその取組の成果は限定的ということでございます。

課題としては、他地域以上に人口減少が進行する状況の中で、地域の公共交通の維持確保の検討が非常に重要になっているということ。それから、島原半島や渡島でございますが、新幹線の延伸が予定されている中で、その効果を半島地域に波及させるための検討が必要だとなっているということでございます。

次に港湾、航路等でございますが、状況としては、地域の特色、実情に応じた整備が進んでいるということでございますが、課題としては、港湾施設の老朽化等によって維持、補修といったことが重要になっているということがございます。

次に、情報通信基盤でございますが、これは進捗した、達成したという率が３５％とい

うことで、割と高くなっております。地デジへの対応はおおむね進捗しているということでございます携帯電話の不感地帯の解消もおおむね進捗しているが、一部課題が残っているところもあるということでございます。ブロードバンドの利用環境の整備も進捗しているということでございます。

課題としては、１つは光ファイバー等といった超高速ブロードバンドの整備が、特に半島地域ほど必要であるということがありますが、まだまだ半島の内外で大きな隔たりがあるということ。それから、ＬＴＥとかＷｉ－Ｆｉといった高速移動通信サービスについても、非常に格差があるといったことがございます。また、災害に強い情報ネットワークを作っていかなければいけないという回答もございました。

次に、産業の関係でございます。まず農林水産業でございますが、農業、林業、水産業、それぞれについて見ても、いずれもまだまだ課題が多いという回答が多くなっております。進捗としては、生産基盤の整備は進捗しているということであり、また担い手の育成とかブランドの育成といった対策も展開しているものの、課題としては、半島地域の地理的な特性、社会情勢の変化によって、後継者が少ないといった状況が大きな影響をもたらしているのではないか、それへの対応が必要ではないかという点。それから、半島地域は消費地まで遠隔であり、そういった遠隔性に起因した流通コスト高への対応が必要だということ。それから、もちろん生産基盤の整備も引き続き必要だということでございます。

次に、商工業の関係でございますが、これは進捗した、達成したという率が０％でございまして、非常に低くなっております。状況としては、企業立地を促進する地域は多いものの、その効果への評価は地域によって異なっているということでございます。それから、既存企業の経営強化、地場産業の振興等の取組を進めていると。また、商店街の活性化等の支援も進んでいるということでございます。

課題といたしましては、まず雇用の確保ということで、企業立地環境の整備、新規企業の誘致、起業の促進等が必要であるということでございます。また、地場・伝統産業では、販路の拡大、後継者の不足等が依然として課題であるということ。それから、高齢化の進行といった状況変化も踏まえた日常の買い物の支援等の環境の整備が必要だということがございます。

次に観光の振興でございますが、進捗としては、広域観光を推進するための体制整備が進んでいるということでございました。例えば、先ほども申し上げましたジオパークについても、伊豆半島で推進協議会が設立されるなどしておりますし、また島原半島について

も組織の充実が図られているということでございます。また、施設の整備も進捗しているということでございます。

課題でございますが、そういったジオパークの認定ですとか、周辺の高速交通体系の整備といったことの効果を半島に呼び込むために、広域的な観光振興の強化が必要だということ。それから、半島の資源の魅力を発信するための取組の必要があるということ。それから、旅行ニーズの多様化を含め、例えばスローステイですとか、そういったものを含めた多様なニーズを半島の特性とうまく結びつけて積極的に発信することが必要だということが挙げられております。

次に水資源の関係でございますが、これは進捗が３８％ということで、比較的高くなっている項目でございます。状況としては、ダム整備等の取組が進捗しており、上水道の拡張、簡易水道の整備も進んでいるということ。それから、水源地域の保全も進んでいるということでございます。課題としては、人口が減少していく中で、施設が老朽していくことにも対応して、いかに施設を更新していくかといったことを講じなければならないという点がございます。

次に、生活環境の整備でございますが、汚水処理施設、住宅関連対策、消防・防災関連については、それぞれ進捗度についてはこういった形でございます。状況としては、計画的な汚水処理施設の整備を進めている。良好な居住環境とか公園の整備も進めている。そして、ソフト面でのハザードマップ等の防災対策も進めているということでございますが、課題といたしましては、半島地域内外で存在する整備格差の問題、それから、住環境整備、定住人口の増加を図ったり、あるいは高齢化社会に対応した住環境整備をしなければいけない。地域の防災体制についても、過疎化、高齢化の中で、消防団員をどのように確保していくかといったことが課題になっているということでございます。

次に、高齢者の福祉でございますが、進捗としては、施設の整備は進展していると。それから、地域の実情に応じていろいろな施策をしているというところがございますけれども、課題としては、高齢者がさらに増加している中で、福祉のニーズを充足し切れていないということ。交通の不便さが強い半島において、いろいろな生活上の不便がさらに問題になるおそれがあるということ。さらに、ひとり暮らしの高齢者が増加する中で、いかに見守っていくか等についての新たな担い手の確保が必要だということがございます。

その他の福祉についてでございますが、さまざまな保育需要に対応した取組は進められていますし、医師の確保、救急医療の体制整備等についても取組が進められておりますけ

れども、課題としては、少子化の影響によって多様な保育機会が減少してしまうのではないかという点。それから、専門性の高い福祉需要が充足できていないという点。そして、医師の確保、救急医療の体制整備においてもまだ格差があるという点が挙げられております。

教育、それから文化の振興についてでございますが、特に教育については施設整備等、比較的に進捗しているという回答でございます。まず、小中学校の校舎とか体育館等の耐震化を進めております。教育の一環として、半島の活性化を担う人材の育成も進められているところでございます。また、歴史的文化遺産の保存や継承も進んでいるということでございます。

課題といたしましては、少子化の中で学校をいかに活性化するかという点や、適正規模の配置をどのように進めていくかという点。それから、歴史的な文化遺産の観光資源としての活用方策の検討や、固有の文化の伝承に必要な担い手の不足が課題というふうに挙げられております。

次に、国内及び国外の地域との交流、地域間交流でございますが、進捗としては、近接する半島同士の連携が進んでいるということで、先ほど申し上げた渡島、津軽、下北、男鹿の４半島の連携ですとか、島原、天草などの連携といったことが進んでいるということでございます。また、都市との交流の取組も進んでいるということでございます。

課題といたしましては、今後とも交流人口の増加による地域活力の増強が必要ということで、例えば都市住民の間の田舎暮らしを求める志向とか２地域居住といった点について、半島地域の魅力を明確に打ち出しながら差別化をしていく必要があるといったことが挙げられております。

次に、国土保全施設の整備でございますが、進捗としては施設の整備が進められている、通信確保のための強化の取組もしているということでございますが、課題としては、近年、大震災、大きな水害等があったことから、リダンダンシーの確保ですとか、それから、これは警察関係と思われますが、リアルタイムの情報の交換・報告についてのシステム整備ということが挙げられておりますし、また、短時間での津波の到達等が想定される中で、避難を中心としたソフトの対策が非常に重要でありますし、また自主防災組織の一層の強化が必要ということが書かれております。

以上のような各分野別の評価を踏まえまして、全般的な評価と今後の方針という点について聞いた結果でございますが、全般について計画の進捗はどうかということを聞きます

と、ほぼ全ての道府県において、計画は進捗しているものの、まだまだ課題があるという回答でございましたし、今後の振興策の必要性についても聞きましたところ、全道府県において、今後とも必要との回答でございました。

これまで実施している計画に加えて、今後どういった分野で振興が必要かという点について挙げられたものをいくつか挙げますと、防災・減災の推進、集落支援、コミュニティーの活性化、ＮＰＯ・ボランティア活動の推進、交流・観光事業等のソフト事業、医療の確保、環境・景観の保全といったものが挙げられているわけでございます。

以上が関係道府県による半島振興計画の評価でございます。

次に、資料４でございますが、市町村長に対して半島振興対策の現状と課題についてのアンケートをいたしましたので、その結果をご報告いたします。これは、今年の２月に実施したアンケートでございまして、回答率は８２．１％でございました。アンケートの内容としては、分野ごとに進捗度、充足度について、４段階での回答をしてもらったものであります。さらに、今後の重点項目として、どういった項目が重要かということについての選択をしてもらったということでございます。

まず、各施策の進捗度、充足度、今後の重点項目でございますが、基幹的な交通施設については、グラフでは青が「とても進んだ」、緑が「ある程度進んだ」、オレンジが「あまり進んでいない」、赤が「全く進んでいない」という４段階でございますが、これで見ますと、高速道路ですとか主要幹線道路という道路関係は、五、六割が進んだということで、割と進んだという評価が高いんですけれども、充足ということで見ますと三、四割であって、進捗度のわりに充足度が低いという結果でございます。鉄道、バス、海上交通については、充足度、進捗度とも低くなっております。

１枚めくっていただきまして、交通関係について、今後どういった項目に重点を置くべきかということを上位３つまで挙げてもらったのがこれでございますが、上位３つ全て道路関係であり、道路に対する重点度が非常に高いということでございました。

次に、情報通信基盤でございますが、これはブロードバンド、携帯電話、地デジ、それぞれが進んだという回答が多くなっております。その中では、高速ブロードバンドの接続環境が若干低くなっているということでございます。充足度についても同様の傾向でございます。今後の重点項目についても、やはり高速ブロードバンドの接続環境の整備というものが最も多くなっております。

次に産業でございますが、これは充足度も進捗度も、どちらもちょっと低めになってお

りますけれども、中では農林漁業と観光は比較的進捗したという意見が多い一方で、それ以外の商業ですとか企業立地、中小企業の経営の改善、地場産業等は進捗していないという結果が出ております。また、地域内の就業場所についても進んでいないという意見が多くなっております。充足度についても同じように、商工業、企業環境を中心に充足度が低いということでございます。今後の重点項目でございますが、これは地域内の就業場所、就業機会、雇用の拡大というのが圧倒的に高いという結果になっております。

水資源の関係でございますが、進捗度、充足度とも、生活用水の確保が非常に高くなっております。しかし、今後の重点項目を見ても、やはり生活用水の確保が最も高くなっているということでございます。

次に生活環境整備でございますが、まず③番、上水道整備については進捗度が非常に高いということでございます。他方で、最も進捗度、充足度とも低いのが⑥番にある、買い物の環境の整備ということでございます。消防、防災の関係については、進捗度は高いのでございますが、充足度はまだ低いという結果になっております。今後の重点項目についても見ますと、防災、消防といった面が非常に高くなっております。

次に福祉関係でございますが、全体的に施設の整備という点では非常に進んでいるという回答なのでございますが、人材の確保という部分はまだ進捗、充足ともに十分ではないという結果になっております。今後の重点項目についても、人材の確保に関する項目、高齢者の見守り・巡回ですとか、介護の人材の確保というものが高くなっております。

次に、教育及び文化の振興でございますが、これは小中学校の整備・維持というのは非常に進捗していて、充足度も比較的高いということでございます。しかし、今後の重点項目を見ても、やはり小中学校の整備・維持は最も高くなっております。

それから、地域間交流でございますが、進捗度については、体験観光ですとか姉妹都市交流といった部分については高くなっておりますが、例えば移住の受け入れですとか、地域外の人材との交流といったものについては進捗度が低いということでございますし、充足度も同じようにこういった項目が低くなっているということでございます。今後の重点項目について最も高いのは、ＵＩターンとか移住・２地域居住等の受け入れ体制の整備となっております。

防災、国土保全施設でございますが、これもやはり地震・津波対策にしても、水害、土砂崩れ等にしても、比較的進捗したという割合が４０％あるわけでございますが、充足度はそれに比べると、ぐっと低いという結果になっております。今後の重点項目については、

地震・津波対策、耐震化ですとか高台移転という項目が最も高くなっております。

そして、その他ということでいくつかの項目を聞いておりますけれども、進捗度が低いという答えになっていますのが、地域資源を生かした新しい産業おこしとか起業支援、それから半島らしさを生かした特色ある地域づくり活動については、まだ進捗していないということで、充足度も低くなっております。今後の重点項目についても、地域資源を生かした新たな産業おこしとか起業支援が最も高くなっております。

こういった分野別の回答結果を踏まえて、分野横断的に、今後特に課題となる分野はどれですかと聞いたものの結果がこちらでございます。１位から５位まで順位をつけて聞いておりますけれども、１位で見ますと、基幹的な交通施設が最も高く、その次は防災、国土保全施設となっております。農林漁業はその次、第３位でございますけれども、２位、３位での回答を見ると、農林漁業は結構高いという回答になっております。そのほか、商工業の振興ですとか観光とかいったものの割合が高くなっております。

その中で、国の支援を期待する分野はどれですかと聞いた場合、基幹的な交通施設というのが１位回答では圧倒的に高く、その次に防災、国土保全施設、それから農林漁業の振興といったものの割合が高くなっております。

次に、各分野ごとの回答を半島の先端部、中間部、基部に分けて見たものが、この次に挙げてございます。主立った項目、差が出ている項目のみ挙げておりますけれども、高速道路の整備ですとか主要幹線道路の整備については、どちらも先端部に行くほど進捗度、充足度とも低くなっております。高速ブロードバンドについても、いずれも進捗したという回答が多いわけですが、どちらかというと先端部において低めの傾向が出ております。携帯電話につきましては、進捗については先端部のほうが高いということになっておりまして、逆に中間部がやや充足度が低いという結果でございました。

新規の企業立地、工場誘致についても先端部ほど進捗が低く、充足度も低いという結果でございます。地域内での就業場所、就業機会、雇用という面についても、先端部が低いという結果になっております。汚水処理施設の整備につきましても、先端部のほうが整備率が低いという状況でございますし、スーパーとか日用品の買い物につきましては、基部に比べてそれ以外の地域がやや低いという結果でございました。救急病院とか入院医療施設の整備という点についても、先端部は状況が厳しいということでございます。

体験観光プログラムとかについては、逆に先端部で非常に進捗したということでございます。また、その次の地域資源を生かした産業おこし、起業支援についても、先端部で比

較的進んだという回答があります。いわゆる地域資源という面については、先端部に比較的資源が多いということと、危機感の表れでさまざまな取組をしているといったことを表しているのではないかと考えております。

以上が駆け足でございますが、市町村長のアンケートの結果でございました。

次に、資料５でございますが、これまでのそういったデータなり、道府県の評価、市町村のアンケートの結果を踏まえて、事務局において半島振興の評価、意義、必要性ということで考えられるのではないかという点を挙げたものでございます。

まず、これまでの半島振興施策によって道路等の交通施設とか産業基盤、生活基盤の整備は着実にできてきており、半島地域外の地域と比べての不利性は大きく改善されておりますが、なお格差は残っている。半島地域の自立的な発展と地域住民の生活向上のためには、引き続き条件不利性への対策に努めることが必要ではないだろうかというのが１点目でございます。

２点目は、工場誘致が困難さを増す中で、地域の就業環境は悪化しており、社会減少が大きくなっていることから、これまで以上に内発的な産業の育成により就業場所の確保に努めていくべきではないかというのが２点目でございます。

３点目として、物の豊かさから心の豊かさへと国民の意識が変化して、人々のライフスタイルや価値観も多様化していることを踏まえれば、地域間交流とか地域の産品の販売の拡大によって半島地域の自立的な発展が図られる可能性は高まっており、今後一層取組を進めていくべきではないかということが３点目でございます。

４点目としては、半島地域の災害への脆弱性に鑑み、孤立地域の対策、避難道路や緊急物資輸送路の確保等の観点から、道路や国土保全施設の整備を促進していくことが引き続き必要ではないかということでございます。

以上のようなことを踏まえると、地域の実情を踏まえて広域的、総合的な対策を行う半島振興対策は、引き続き必要ではないかということでございます。

以上、大変駆け足で恐縮でございますが、事務局からの説明でございました。

【安島部会長】　　どうもありがとうございました。

それでは、ただいまのご説明に基づきまして、これまで行われてきた半島振興対策をどのように評価するのか、半島振興対策の意義あるいは重要性は現時点でどうであるのかという点について、約１時間弱、時間がございますので、時間の許す限りご意見を頂戴したいと思います。

事務局からの説明は主として、地理的条件等による条件不利性にいかに対応してきたかという、従来からの半島振興策の基本的な枠組みの中での評価結果のご報告をいただきました。今日の議論はそれにこだわることなく、今日的な意味で意義とか必要性として考えられていることにつきましても、委員の皆様のお考えを自由にお聞きしたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは鈴木先生、先にご退席だと伺っていますので、まず最初に何かご意見ございましたら。

【鈴木委員】　　こういうプランをつくって今までいろいろなことを実施してきたんですが、プランどおり実施したらほとんどおもしろくない。台本どおりじゃない想定外や意外なところが、実際には効果が出ている。アンケートで聞くと、交通とか高齢者の施設とか利便性が出るのは、高齢者が多くなってくれば当然です。若い人たちをどう取り込んでいくかという面が、評価ではあまり出ていない。

最近こういう半島とか辺境の地を歩いていると、世界を歩いてきた若い人が場所を見つけて活躍していて、非常におもしろいと思っています。半島もどこも同じだと思うんですが、永久不滅なものを好きだけど変化するものも好きだと言うこと。でも、どちらかというと今までは、永久不滅にちょっと傾いていて、変化するものを見せてこなかった。地域の歴史文化をどうやって若い人が見せるかということが起こってきている。

私はこれから半島は、自然景や生活景はある程度あったけれども、私は文化景ということを言っているんですが、土地の文化をどうやって見せるかというシンボル的なものをつくっていかないと、自然景や生活景だけじゃだめじゃないか。若い人が新しいデザインを入れて表現していくことが重要になってくると思う。

先ほどあった、物の豊かさから心の豊かさへということですが、これを言いかえると空間の価値と時間の価値という豊かさに気づき始めている。半島は非常に魅力が出ている。明日も隈研吾さんが、鈴木さん、一緒に地方のことをやりたいと出かけます。何でですかと言ったら、ユニークな場所の力を生かせるのはローカルしかない。だから半島の話とかをすると、ユニークな場所の力を、東京の歌舞伎座とは違う魅力があるのです。だから、ユニークな場所の力を生かせるのはローカルだということを、これからもっとやっていったらいいんじゃないか。

もう一つは、いろいろな産業も興してきて、いろいろなことをやってきたんですが、うちの学生が地方に就職すると言ったときに、地元の社長が言ったのは、待っていてもしょ

うがないから、もっと打って出るようなことを戦略としてやらなきゃだめ。いろいろなことをやってきたのは、どっちかというと待っている戦略みたいなことが多かった。

外からの人は、地方の持っている価値を見つけているが、言う場がなかなかない。言える場があったら一緒にやっていきたいということで、若いデザイナーの３人の人を連れて、デザイン料ただ、選択権は地元にありということで、５年か１０年ぐらいじっくりやってみたいと進めています。都会ではじっくりしたことはやれないので、ローカルでじっくりしたことをやらないと、だめになっちゃうと言っています。

こうした意味では半島は、若い人が時間の価値、空間の価値を生かしながら、じっくり新たな文化景を創造することができると思うんです。

以上です。

【安島部会長】　ありがとうございました。

鈴木先生のおっしゃっている文化景というのは、いわゆる地域にある伝統文化とか、あるいはそれに基づいた生活文化とか、そういう地域の育んできたものではなくて、新しいものという意味ですか。

【鈴木委員】　古い歴史や文化を新しいメディア性を持っていくことです。半島の歴史や文化は手あかがつけられて消費されているんです。もともとあったものに、もう一度デザインし直して、新たに地域の精神的な文化としてメディア性を持たせるということです。メディア性がないから、伝統文化があっても古臭くて、手あかがついて、見に行っても感動しない。地域の歴史や文化をどういう形で新しいメディアで見せるかということが、今後の文化景になると思う。

【原田委員】　世界農業遺産でやっているような例は、いい例なんですか、悪い例なんですか。どっちに入る。

【鈴木委員】　伝わってくるときに、新しい感覚で伝わってこないから、そこで終わっちゃっているところがある。もっとメディア的なものを意識していかないと、覚醒されない。私は、デザインの力は覚醒力だと思っている。デザインには覚醒力がある。

【原田委員】　覚醒、大きくする。

【鈴木委員】　覚醒というのは人びとに価値を目覚めさせる。「半島のじかん」もそうですが、半島ってこんなにいいところと目覚めさせるというところが大事。文化景にしてメディア化して知らせていくことによって、新しい価値を生み出していくことができる。

【安島部会長】　それは、全く新しくつくるというよりも、その地域の伝統とか、そこ

で生まれてきたもの、そこの地域のものから、新しい価値を見つけていくという意味ですね。

【鈴木委員】　　そうですね。ジオパークもそういう狙いだと思うんです。もともとある地形的な文化を、ジオパークという切り口のメディアとして見せていく。それが十分かどうかは問題あるわけですけれども、地域にあるものを、みんなに覚醒してもらうという作業はしていなかった。半島は結構おもしろいし、意外性があったり、いろいろな発見があるんです。でも、それを伝えるメディア性をあまり意識してこなかったんじゃないか。パンフレットだけつくっちゃって終わりみたいな。

【原田委員】　　能登の世界農業遺産のところは、かなりいろいろなことをやっていて、成果も上がっているようにも、実際に行ってみてもそう思ったんですが、あれはまだ先生の言われるメディア性というか、それはまだ足りないという感じですか。

【鈴木委員】　　那智勝浦の色川地区、行きましたよね。あそこの棚田を僕らは見てすごいなと思うけれども、そのことをどう伝えるかというのはあまりしていない。能登のほうへ行っても、美しい写真と、観光的にそういうことをやっているけれども、もっと表現の仕方はあるんじゃないかなと思うのです。

【原田委員】　　そうですか。

【鈴木委員】　　現場に行く前に、メディアとしてどうやって伝えていくかということで、地域は覚醒される。

【安島部会長】　　メディアの使い方が大事だという意味ですね。

【鈴木委員】　　僕らが気づきを持って半島をもう一度見ていくということをしないと、半島の価値は評価できなくなっちゃうんじゃないか。

【安島部会長】　　原田先生は能登の世界農業遺産について、いろいろご存ですね。

【原田委員】　　あそこの先端の町で、珠洲市か何か、えらい小さいところで、金沢大学の高山先生がずっとやっていて、公共交通が増えて、地区でずっといろいろなことをやっていて、そのグループで先端をずっと見に行ったんですけれども、そのときにはそれなりに頑張っているなという印象を受けたので。もちろん、行く前に知っていたことと、行って感じたことと、もうちょっとそれは情報発信していればいいなとは思ったんですけれども、でも世界農業遺産自体をあまり知らなかったので、そういうことでやっているのかというのは、非常に活性化していると感じましたけれども。

【安島部会長】　　私も２０年ぐらい前に金沢の大学にいましたので、能登のいわゆる農

業遺産的なものは、すばらしいものがあると思っていました。

【原田委員】　今あそこでつくっている塩が、ソラマチで一番売れている塩があそこの塩なんですね。

【鈴木委員】　ありますね。

【安島部会長】　２０年以上前から、塩を作っていましたよ。

【原田委員】　そういうような情報がある。

【鈴木委員】　あれも昔ながらの表現や情報でしかない。

能登にはイタリアの大学を出た人とかいろいろな人たちが、ほんとうにびっくりするような人たちが住んでいる。そういう人たちが、新しい雑誌を出したり新しい表現をしているから、もっと支援していけば、我々はもっと覚醒されるんじゃないか。

【安島部会長】　そうですね。はい。

【田中委員】　そういう文化というんですか、私は田舎ですから、江田島市なんか田舎ですから。ところが、田舎の人というのは都会の人から見ると、非常にそういう文化的な価値があると思うんですけれども、いろいろな価値があるのを知らんと言うんですけれども、田舎の人はそれ、実は厄介なものなんですよね。うちの立場で言うと、実はそういったいろいろなものというのは、非常に行政経費が高くなるもとなんですよ。例えば日本海のように風が吹いて砂が吹き上げるようなところでも、都会から来ると、これは非常に都会の日常生活の中にない、新しいものなんですね。

ですから今、日本国内のほとんどの場合、非常に活性化しているとかいうのは、例えば棚田を復活したとかいうのは、もともと都会の人が来られて、これを復活させようとかいうような。要するに、田舎で育った者と都会で生まれ育った者というのは、自分の体験というか自分の生活にないものが、価値があるんですよね。自分にないものは価値があるんですよね。ですから、都会の人にとっては非常に不便なとか、条件が悪い自然があるところなんかも、いわゆる棚田なんか、田舎の人は棚田なんか非常に厄介なもので、それを守るのに必死なんです。ところが都会の人にとっては、それが非常に魅力があるんです。

いろいろな今の日本の中で非常に話題性のある、活性化しているところというのは、大体都会の人が仕掛けて、田舎の人が後から、そうだね、やってみたらたくさん人が来てくれるねと。これでよしよし、我々がふだん食べている餅を売ろうとか、何を売ってみようかというような形で、仕掛けはどっちかといったら都会の人がやると。

ですから、今の都会の人と、田舎の半島のよさをほんとうに生かすのには、そこらの政

策的に、今、総務省では郷土のまちづくりということで、若い人が、都会の若い人じゃないと田舎へ、過疎地域へ、色川はそうですね、ああいう形でやっておるんですけれども、都会の人に田舎のほんとうのよさ、鈴木先生が言った文化的な価値というんですかね、そういったものを見つけてもらわないと、田舎の人はそこに住んでおったら、ほんとうに価値があるかどうかというのは、なかなか私は見えないというんですかね。最近はちょっと田舎でも変わった若い人が出てきておるんですけれども、全体的に言うと、そこらが田舎と、半島地域と都会との、政策的に交流があるような形をとらないと。

【鈴木委員】　私はこう思うんですけれども、地域から気持ちが離れると地域の景観が乱れる。だから、都会の人が行ってそこに気持ちがいくと、一生懸命景観をつくろうという気持ちになる。地域の人が気持ちが離れた途端に、価値がなくなって、気持ちをそこに持った人が価値を見つけるということになっている。

【田中委員】　色川でもそうですね。あの山道をぐるぐる回るのね、都会から来た人は、非常にロケーションもいいし、のんびりしていいですねと言うんですが、そこに住んでおる人というのは、特に行政にかかわっている者は、非常に厄介なんですよ。あんなところへ、山の中間へ道がどんどん、道を維持管理しなきゃいけないことがあって、非常に行政コストが高くついて、東京都の何倍も行政コストが、１人頭かかるような世界なんですよね。ですから、なるべく道は一直線、川も一直線というような政策をとるのが田舎の我々で。

ところが都会の人は、そういった道が曲がって、山の中間のように道があるのが非常に人間らしく、そこで生活すれば人間らしく生活できると言うんですけれども、同じ条件ですと、間違いなしに田舎のほうが行政コストが。

【安島部会長】　かかりますね。

【田中委員】　維持できません。

【安島部会長】　今回のいろいろなご報告も、基本的には従来の政策で、いろいろな支援してきたものの評価だということです。昔の全総の国土の均衡ある発展という中で、工場立地だとかそういうことを考えたときには、交通だとか、みんな同じ条件にしていきましょうという思想で進められてきたと思うんですけれども、評価を見てみますと、新規の工場立地はほとんど出ていないわけですね。その中である程度、発想の転換が必要になってくるんじゃないかなと思いますが、田中市長さんは改めて、非常に微妙なお立場なのかなと思いますけれども。

【田中委員】　　例えばこの首都圏なんかもそうなんですね。房総半島なんかもそうですが、例えばリニアカーのようなことがヒュッと通れば、首都圏の通勤時なんか、簡単に言えばちょっとで行きますから。例えば首都機能ということなんだけれども、人間だけの分散、房総半島にも分散できるとか、過疎化が防げるとかいうのがありますからね。

ですから、最後にはそういう政策。中国のように、文化大革命でしたかね、若い者は全部農村へ行けというような、強制的に行かせておるんですけれども、日本じゃ人権とかいろいろなものがありますからあんなことはできませんけれども、極端に１つの例で言えば、そういう半島地域のほうへ人が入っていくような、誘導するような政策というんですかね。そういったもの。

【安島部会長】　　そうですね。それは、今までは工場立地とか雇用の場の確保というような形を目指してきたんですが、どうも従来型のものとは大分ずれが出てきていて、じゃあ半島の将来を、どういうビジョンを描くのか。それに対して次の政策の利用ですね。今やっている政策の評価と、次は今のままこれを進めてもいいのかどうかというところが、次の回、半島振興に向けて議論すべきことだろうと思います。

【野口委員】　　今までのご報告を聞いていて、随分便利になった、工場も近くなった、より時間が短くなったとか、進捗したのはわかりました。振興対策がもともとそうだと思うのですが、調査の項目が道路だとか、速く、より都会的にという物差しですよね。ここら辺でそろそろ物差しを変えて、新しい物差しも加えては。私は道路をつくることが悪いとは全然思わないんですけれども、「こんなに速くなったからどんどん出ていって」という話にこのままだとなっちゃうなと思います。「こんなに便利になったから来て来て」または、「ちょっと出かけてまたすぐ戻れるよ」という、戻りたい場所、こんなにいい場所なんだ、半島の暮らしはという、よいところを育て、褒めというところを振興対策にきちんと入れないと、道路だけつくって、便利になったらみんないなくなって終わりになるだけだと思います。そろそろ振興対策というもの、振興とは何なのかというのを、幸せ度数というのがあると思いますけれども、幸せがどのくらい振興していくのかという物差しをつけるべきだというか、もう一つ物差しを持つべきだと思います。

調査報告を聞いていて、最後の生活のほうでどんな結果が出るのかなと思うと、あっという間に終わりました。どういう調査項目をつけていいかわからないですけれども、例えば湧き水が飲める豊かさとか、深呼吸できる豊かさとか、いつでも犬が飼いたいときに飼えるとか。今、うちなんか、飼いたいのにマンションで飼えなくて、悩み抜いているんで

すけれども、それとか、１人の子供をたくさんの大人が「危ないよ」って言ってくれる、見てくれる環境とか、子供がたくさんの面積を使えるとか、いつでも森林浴できるとか。じゃ、鬱病にならないとか、アトピーにならない、という幸せ度数は、ここでははかってくれないのかなと思うわけですね。

そういう物差しで、これだけ半島っていいというのをいうと、じゃ、もう手当てしなくていいのかという話になりますが、そうじゃなくて、そんなにいい半島だから、みんな行こうよ、みんな半島と交流しようよ、ここに住んでもこんなに豊かじゃない？　という幸せ気づきをさせてあげる振興策を、きちんとこれからは立てなきゃだめだと思う。今までは、「あなたたちだめだよ、だから救ってあげる」だった。「少しよくなってきたじゃない、だからこの幸せを、もっともっと増やそうね」というふうにしていくべきだというのが１つ。

それともう一つ、今、鈴木先生がおっしゃったように、いろいろな兆しがどんどん出てきていますよね。その新しい動きや兆しをバーッとさらって、こんなにいろいろな芽が出てきているよともっともっと見せてあげるべきだと思います。例えば、鳥羽の菅島はやたら風のひどいところですけれども、その風を利用してイセエビの干物をつくったら、今すごい話題になっています。究極の干物ということで。これは、マイナスの風を利用して新しい地場産品が生まれたということです。また、奈良県のほんとうに山間部ですけれども、水源地なんで水源地スイーツをつくろうという、女の人たちで話になった。水源地のスイーツって、聞いただけで食べたくなるじゃないですか。

水が豊かだとか、風が強いとか、いろいろなそういう特色をうまく利用して、新しい産業とか産品も興るわけです。おとといっていたところは、これは半島ではないんですけれども、長野県の山奥で、大変見晴らしのいいところにブランコがあるんです。村にしてみればただの公園です。１８０度、もっと広く見晴らしのいいところ、高いところにブランコがあって、子供が遊ぶブランコなんですが、そのブランコをこぐと、その景観が全部私のものになる。そのくらいすてきなブランコなんですね。そこに３０人ぐらい、若い人たちと行ったら「ここでプロポーズされたら思わずうんと言うよね」という話になって、これはプロポーズ・ブランコと名づけようと。そうすると、今あるものをそのまま全然動かさなくて、プロポーズ・ブランコになると、そこに、どんなに不便なところでも絶対プロポーズに行くはずなんですよ。

そういう今あるものを、ちょっとみんな見方を変えて、変化させていくことのやり方な

りヒントというのを、交流を起こしながら育てていく。そのことの道というか道筋を、ガツンと大きくつけなきゃならない時期だと思います。振興の方針というのを、もう一つ物差しを新しくつくりましょうということと、そういうつなげる道筋に極力、大きく力を割いていきたいと思いました。

【安島部会長】　　ありがとうございます。

今、野口委員からの、実は多分、復習をしていただいたんだと思うんです。前からそういう話は出ていまして、もっと、道路の整備の進捗率とかそういうものだけではない指標を入れて、半島のよさとかも積極的に評価していきましょうという話になっていたんじゃないかなと思いまして、もう一度今、復習の意味で皆さん、お聞きになったんじゃないかなと思います。

都会的な利便性とかという指標が中心を占めていると思うんですけれども、半島のよさとかをもっと積極的にこの中に入れて、それを伸ばしていくような、展望とかビジョンというか、何か希望があるような半島地域をつくっていく必要があるのかなと思いまして、そういう方向でぜひ、これからのこのレポート等についても考えていけたらと思います。

【岡部委員】　　いいですか。そういう宿題をたしか出したんですけれども、きっと難し過ぎる宿題だと思うんですよ。

【安島部会長】　　難しいですか。

【岡部委員】　　それを何か評価する指標というのは、ほんとうにあるのかということなんですよ。

で、能登半島で前、佐無田先生がされた試みで、サステーナブルの指標をつくろうと。能登半島のだったと思います、つくろうとしたときに、結局そこオリジナルの指標になってくるので、その指標自体で評価することに価値があるより、みんなで指標は何なのかと考えることに意義があったんじゃないかということに落ちついて、例えばその能登半島の指標では、サケの遡上する数とかが経年変化でもって改善するとか、そういうことをみずから指標として見出していくことに価値があって、それを全国一律で、こういう形で出せるものなのかというのが、一つ疑問に私は思っています。

今、話の流れとしては、都会の人たちがきっと新しい価値を発見するということですが、あまり期待し過ぎてもまずいと私は思います。結構、都会の人は気まぐれで、不便さからくるレア感みたいなものに価値を見出しつつ、便利でなきゃ話にならないみたいなのがあるんです。学生と一緒に行きましても、いいところだと。じゃ、住むかというと、誰も住

まないんですね。それは、不便でないとないよさなんだけれども、コンビニがすぐ近くになきゃ、やっぱり生きていけないとか、ネットがつながんなきゃ生きていけないということで、結局は住まないということなんですよね。そこのないものねだりをしている都会の人たちの価値観というのは、結構真面目に見ないとまずいんじゃないかと私は思います。

せっかくこれだけいろいろな資料を説明していただいたので、１つ質問を資料に即してさせていただきますと、資料の２の２０ページで完全失業率のデータがありますが。

【安島部会長】　資料２ですか。

【岡部委員】　資料２の２０ページです。半島内での比較で基部、中間部、先端部で比較されているんですけれども、基部のほうが失業率が高いと。最小、最大を見ると微妙な数字ではあるんですけれども、大きな違いはないんですが、これは半島を全て平均化してこういうデータが出ていると思うんですが、全ての半島においてこういう傾向なのか、あるところの基部の失業率の高さが影響しているのかとか、もしおわかりであれば教えていただきたいというのが、１つ質問ですね。

私がもう一つ言いたいことは、というか一番言いたいことは、例えば資料３で、今後必要なものは何かって最後に出てきます。資料３の２０ページで、今後振興が必要と考える事項ということをまたまとめられていたり、次の資料４のアンケートで今後の重点項目というのを聞かれていますけれども、この今後って、どういう時間的なスパンかということですね。おそらくイメージされているのは、平成２６年以降、新しい半島振興法ができたとしまして、そのとき求められるものは何かということだろうと思いますが、やっぱり半島振興を考えるのは、そんな３年、５年という話ではなくて、ビジョンという話が会長からも出ていますけれども、少なくとも３０年、５０年、場合によっては１００年ぐらい先を今後と見た場合には、違った答えになるんじゃないかということなんですね。

私、学生たちと南房総でいろいろ試行錯誤している中で、さっき申し上げた、都会の人はいいと思うけれども、じゃ、住んでと言ったら誰も住んでくれないということで、私は少し若者たちにいら立ちを感じていまして、それで今やっています課題が、昔、海運で栄えた卸問屋があって、大正時代に栄えたところをフィールドにしているんですが、学生を６０人ぐらい、２度に分けて連れていきました。建築と都市計画の学生です。そこに今、あいているお店だったり、ほとんど開店休業みたいなお店がいくつかあるわけですけれども、そのオーナーの人を無理やり割り当てて、学生たちにそのオーナーの人に会ってもらうんです。

その後、何を発表してもらうかというと、まず口火を切るのは、「私は２０５０年、この建物のあるじです」というのから始めてもらうんですね。２０５０年、私はタイムスリップしてきたみたいな感覚で、今の学生で言うと、そのときちょうど５０歳、６０歳ぐらいになっているんですが、自分はあるじですと。そのときの町を知っていますと。その町の形も、みんなに無理やり与えちゃうんです。「ここはもう私の建物はなくなっています」みたいなのもあるんです。

それを言ってから、私はそれで今、この２０１３年に２時間だけこの建物に来て、道楽をしたいと。で、どういう道楽をしたいか提案してもらうということをやっています。つまり、当事者感が都会の人にはまるでないんですね。いいところですねみたいには言うけれども、当事者感がないので、そういう課題を出しているんですけれども、２０５０年とか、少なくとも２０５０年ぐらい、この半島地域はどうなっている、それに向けてどういう施策が必要と考えるのかというような、ビジョンということと同じことですけれども、より具体的に言うと、そんな視点があることによって、発想の転換、転換と言われながら、今までの延長でどうしてもいってしまうのを打開する方法があるんじゃないかなと思いました。

【安島部会長】　　そうですね。ありがとうございます。

いろいろなご指摘をいただきましたが、最初の指標のところですね。これは難しいので、ギブアップした。ここの場でもう少し議論する必要があったのかとか、いろいろなことを思い起こすんですが、この辺はどういう感じでしょうかね。

【金子半島振興室長】　　今回はこれまでの施策の評価ということですので、ある意味、あえて従来型のやってきたことがどうであるのかという点を中心に進めさせていただきたいんですけれども、また次回の部会でこれからどうしていくか、方向性のご議論をいただくに当たっては、今までいただいているそういういい点を、もっと評価すべきではないかという点もあわせて準備したいと思います。

【田中委員】　　半島に住んでおる者は、これの場合は多分、半島の中の町がだんだん過疎化で職場がなくなってきていることだろうと思うんです。先端部とか根元のほうは、都会の通勤とかそういうのがしやすいと、ほんとうはこっちが低いはずなんですけどね。こういう調査結果なんですけれども、半島の地域に住んでいる人は、何を一番頭から考えているかといったら、格差のことを考えておるんですよね。道路をよくしてくれとか、何をよくしてくれというのは、実は格差の問題。それは、医療とか福祉のことなんです。

特に医療関係のことを考えるとよくわかると思うんですが、救急車で行くと、例えば私らのところで言うと広島市内とか呉市内とかいうのは、１０分あれば総合病院に行かれるわけですよ。私のところは救急車で行っても３０分かかります。それは、例えばテレビなんかのマスコミに出てくるんですよね。こういう病気があって、救急車で行って助かったとかいう。ところが田舎に住んでいる者は、それは助からないわけです。ですから、そういう福祉とか医療とかいうことの格差が気になって、道をよくしてもらえないかとかいうことを言っている。

【安島部会長】　　そうですね。具体的な話になるとちょっと気になりますね。

【田中委員】　　問題点があって人が減るのはもうしょうがないとしても、今、首長は一生懸命、何か産業誘致ができないかということ、製造業なんかはできないかというのは、今の状況で言うとそれは全く、製造業は外国に出ていくような状態、今あるものが出ていく状態ですから、非常に難しいんです。

もう一点、生活上のことで、田舎で生活して給料が少ないから不満なんかいうのは、そんなことはないんです。都会の人と比べて給料が少なくても、田舎に住んでおる人はそれなりに十分生活できるわけです。何を思っているかというと、都会との医療とか福祉とか、情報系とかいうものの格差の問題。例えば携帯電話が入らない部分があるんです。今の時代、携帯電話が入らないというのは、ちょっと信じられん世界なんですよね。そういう格差を気にして、もっとよくしてくれ、よくしてくれといって大きい声を出しておるんですよ。ですから、都会の人と同じじゃなくても、生活上、まあまあこれなら東京の人とも、そう格差がないわという生き方ができると。所得のことじゃないんですね。働く場所のことでもないんですね。どんどん若い人でも東京へ出ます。都会へ出ますから。

【安島部会長】　　道路については相変わらず要望は非常に高いと思うんですけれども、それは特に医療なんかのことをお考えになっていたり、あるいは震災とかの場合に、そういうことなのかと思いますね。だから、そういう意味では医療なんかのことは、もっと道路以外に解決する方法があるのかどうかということを考えていく必要があるんじゃないか。都会でも、近くに病院はあるけれどもたらい回しにされて、なかなか何時間も病院に入れないということがしょっちゅうあるわけで、それだったらもっと違う方法のほうがいいのかもしれないですね。

【田中委員】　　むしろ、江田島に来てほしいですけでね。江田島の保育所では、生後6カ月から入所できて、10ヶ月では全保育所で入所が可能になりますからね。

【岡部委員】　　極めて満足しているという状況ですよね。充足率も高い。

【田中委員】　　非常にいいところもあるんですけれども、田舎のほうが。

【安島部会長】　　あとは、情報とかですね。携帯電話とかブロードバンドみたいなものについては、そんなに大きな問題ではないんじゃないか。もう少しやれば、解決するような感じがしておりますけどね。これはだから、わりに短期の問題だと思うんですよね。岡部委員がおっしゃったように、目標とかビジョンを描くときも、１０年後なのか、２０年後なのか、３０年後なのか、あるいはもっと先なのかというところも、今後とか言うときに考えていったほうがいいのかなという感じはしますね。

【金子半島振興室長】　　岡部先生からのご質問について、先に事務局から答えさせていただきます。

「今後」とはどれぐらいをイメージしているのかという点について、こちらからは特に指定をしていないのですけれども、ただ、これまでの半島振興計画が１０年タームでやってきていることを考えると、数年、１０年ぐらいを考えているのではないかと考えます。

それから、完全失業率のデータについてでございます。半島の中でのデータはないのですけれども、半島ごとに見ますと、全体の平均が６．８％である中、例えばそのパーセントが低いのは、島根半島とか丹後半島、それから江能倉橋島、紀伊半島の中とか、能登といった、本州の真ん中辺に近いところが比較的低くなっていまして、逆に津軽で１１％とか男鹿で１０．６％というふうに、やや端のほうで比較的高めということでございますが、そう大きなばらつきはなく、６、７％のところが多くなっております。

半島の中の個々の市町村ごとに見ましても、本当に個別の事情でございますので、非常に低いところも高いところもあるという状況でございます。

【安島部会長】　　ありがとうございます。沖委員どうぞ。

【沖委員】　　ありがとうございます。

まず、資料５で最後で、引き続き振興が必要ではないかということですが、やはり困っている方がいれば、それを助けるのが国の役目だろうと。今お話が出ましたとおり、使われない道路といっても、それは使うためにあるのではなくて、いざというときに、あれがあれば何とか自分の命も助かるんではないか、あるいは自分の健康の問題、それから災害に対しても、災害のときにあれがあれば、自分たちは救われるんじゃないかと思うという命綱的な役割があるので、使われないからといって、それは不要というのは、多分一面的な見方なんだろうと思います。

ただ、今回お示しいただいた資料を見ると、まず半島地域よりも過疎地域のほうが、いろいろな面では深刻である。そこをどう考えるのかというのは、この場なのか、どこの場なのかわからないですが、やはり検討する必要性があるんじゃないかと思いました。

それから、先ほど来出ている、幸せとは何かなんですが、別に専門じゃないですが、最近本を読んで勉強していますと、例えば相対的な所得。つまり、絶対的な所得ではなくて、周りの人と比べて自分は高いか低いかというので、みんな幸せ度が決まる。ただ、それはある程度まで増えるとあまり寄与しなくて、今度は大きく関係するのは仕事があるかどうか。それは所得だけではなくて、自分たちが社会にとって必要とされているかどうかとかいうことと、いい代表としてあるということから、そういうことが効くのかな。

もちろん、あとは自然条件とか自由な時間とか、いろいろあるんでしょうけれども、そういう意味で言うと、今話題になった完全失業率のところが非常に興味深いんですが、案外全国と変わらないなというのがびっくりしました。

【安島部会長】　　そうですね。

【沖委員】　　また、このデータから言えるのは、ちょっと刺激的な申し上げ方かもしれませんが、過疎や半島地域だから失業率が高いのか、あるいは仕事に就けない人が多いのか、仕事に就けない人が過疎や振興地域に住むことになってしまっているのかというのは、このデータだけから実はわからないということですね、厳密に言えば。

で、先ほどからお話が出ていますとおり、若い人は仕事が欲しければ移動してしまう。先ほどからの議論ですと、今ある市町村は全部、この後も未来永劫維持していきましょうということが善であるかのような前提で議論はされていると思いますが、１５０年、例えば振り返ってみると、１５０年振り返らなくて、多分戦後にたくさんの方が復員してこられて、いろいろなところに住み始めたという集落もいっぱいあるはずなんですね。そうしますと今後、今、岡部委員から話が出た１００年、１５０年先を見ると、定義の予測だと３,０００万人ぐらい、江戸時代ぐらいまで、また減っていくわけですね。そうしたときに、今と同じような市町村の規模を維持していくのか。多分それはまた夢物語で、そうじゃないだろう。

そうすると、まさに先ほどから話が出ている、この１０年、２０年、今住んでいる人がいて困っているという話と、その先のインフラをつくっちゃうと今度５０年、１００年もちますから、それを維持していく話、これは全然別ですね。ですから、今度質問というかビジョンをつくるときには、とりあえずの１０年と、その後５０年どうしていくのか。ま

さに先ほど岡部先生がおっしゃった話が重要になってくるかなと思います。

もう一つだけすいません。資料３を見ますと、こういう聞かれ方をしたら、順調に進捗したと言ったら、もう要らないんでしょうと言われるから、それは答えないでおこう。で、全然改善しなかったと言うと、おまえが何もやらなかったからと言われるので、答えないでおこうということで、大体意味のあるのは目に見えているんですが、そうした中で特徴的なのが、１つは資料３の１１ページの商工業の振興で、これは０％で、うまくいったというのが。こういうのはやはり民間の活力でやることなので、なかなか国が旗を振ってもしょうがないことなのかなという気が、これは印象です。

１３ページの水資源に関しては逆に、非常にアが多いんですね。つまり、できた。一番最後の今後の取組に関しても、やってくれと言う方がほとんどいない。ある意味で言うと、水資源に関しては皆さん、満足されている。それだけではなくて、この１３ページの下に、給水人口や給水量も減少する中で、老朽化施設の更新需要。これは話が出ますのは、基本的にはそもそも水道事業というのが地方自治体の独立会計になっている。しかも、維持補修はまた自分の土地でやらなきゃいけない。もうオーナーシップがあるわけですね。

これに対して、道路はどんどんつくってくれと言う。ところが、道路もほんとうは維持補修は市町村。造成したら自分たちでやらなきゃいけない。このお金、どうするんだ。橋を調べてみたら、いろいろ亀裂が入っている、大丈夫かというのがたくさん出てきているわけですね。そういうのも見据えた上で、ほんとうに自分たちで維持していくんですか。これ、国際協力のときに、つくったはいいけれども使い続けられない、あるいは自分たちで維持補修できないのはいけないと、さんざん過去二、三十年やられてきて、今きているんですが、じゃ、日本の中におけるそういう再配分をしたときには、未来永劫支え続けないと維持できないような施策は果たしていいのかということが問題で、水に関してはそれがかなり分権が進み過ぎているがゆえに、逆に今は地方がものすごく困っているという状況か、それが先端的に出てきているという状況かなと思います。

ですので、そういうことを踏まえて、今困っている人たちを支えていくのは大事だけれども、その後をどう描くかというのを見据えた上で、施設整備というのはやっていかないと、財政的に厳しい中、なかなか持続的ではないんじゃないかと思います。

すいません、長くなりましたけれども。

【安島部会長】　どうもありがとうございました。

【岡部委員】　ごめんなさい、失業率のことですね。私ちょっと考えたのは、ひょっと

すると高齢者の失業率が、こういうエリアのほうが低いということは考えられます。畑を耕したりしていて、失業者として。で、若者の場合には失業率が高い可能性もあるかもしれないので。

【沖委員】　　あるいは失業していても、何となく暮らしていけるからかもしれないですね。

【岡部委員】　　ええ。ですから、カウントされていないということですね、畑を持っていたりして。

【安島部会長】　　鈴木先生、何かありますか。一言もしあれば。

【鈴木委員】　　指標は人と人との関係や人と物との関係を物と物との関係にしないと、指標にならないところがある。今の話も聞いていて、人と社会、人と物、人と人との関係を指標化してくれば、ほんとうの半島の指標が出るけれども、なかなか難しい。沖委員の意見も、人と人、人と物との関係になると、満足度とか充足度が出てくる。商業は人と人と、人と物との関係だから、そこの指標がほしいですね。　国の政策が、市場に向いていて、市場によって日本をどうにかしていこうとしているので、人と人、人の社会の関係が落ちているので、こうしたことを政策として出していくというのはあるんじゃないかな。

【安島部会長】　　まず、沖委員からいろいろご意見頂戴しまして、命綱としてのいろいろな道路とか、非常に大事ですよね。安心して住むことができるということをどうつくっていくか、これは一番大事なのかなと思います。

【田中委員】　　先生、私の江田島でも高齢化率、６５歳以上が５０％を超えている地区があるんです。そういうことを考えると、全体でどんどん上がっていくわけですから、新しい産業で働く場所とかいう考えよりは、今住んでおる人の福祉とか医療とかの、とりあえず問題だということの意識が強いんです。ですから、新しく産業を興すというのは非常に困難なことで。

【安島部会長】　　そう思います。

【田中委員】　　地元でやっている農業で、１人若い人を農業で、専業で使わせるために、何千万という金をかけて１人の人間、専業農家に育てるため、何千万かけておりますよ。私も、だから金かけるの、無駄じゃないかのような気がするんです。それは、高齢化しておるから若い人、何とか増やせという声で、結果そうしておるんですけれども、大ざっぱに言えばそれだけ、地区によって５０％の高齢化率があるというところは、やはりよく耳を傾けないと。

【安島部会長】　　そう思いますね。そこの場所で、……。

【田中委員】　　安心して生活できる、いわゆる安全、安心して生活できる基盤にしてほしいということじゃないかと思うんですよね。

【安島部会長】　　今後何をするかの中に、あまり雇用の場みたいなものを拡大とかというのは出てきていないかなという気がしておりまして、例えば今おっしゃったように、５０％を超えているような地区があると。今、限界集落とか、いろいろ言葉が定着してきまして、現実的にはここ数年のうちに、そこの集落は維持していくことが難しくなってしまうという現実があるわけですね。その中で、今、村おさめとか里じまいとか言われているようなことを、どう考えていくのかということは、これは半島だけの問題じゃないですけれども、少し考えていく必要があるんじゃないかなと思いますね。沖委員が言われたような何十年、１００年とかになると相当、今の状況では全くなくなっていると思いますね。そのときに、今やっていることがどういうふうにそれを機能させていくか、維持していくかということを含めて、ちょっと考えていく必要があるのかなと思いました。

どうぞ。

【中嶋委員】　　今まで参加できなくて、まことに申しわけありませんでした。皆さんよりも情報が少なくて、理解も乏しいですが、なるべく追いつくように頑張ります。今日はお話を伺って、全体像がようやくわかったような気がしまして、それでいくつか感想めいた意見を述べたいと思います。

１つは、今までの対策がどのぐらいできているのかという結果と、今後の課題というのをそれぞれ項目ごとに見ると、できているのに重大課題であるということを、かなりの部分、重複して答えていらっしゃるような気がするんですね。ある意味、今までの対策がうまくできたので、地域としては安定した状態にはなっているのかもしれないけれども、ただ、将来に関してはまだ不安が相当あるということを述べていらっしゃる。これが両方出てきた理由じゃないかなと思います。

それは、多分、日本全体がどういう方向に動くのかということを１つのベンチマークにして、半島地域が今後どうなるのか、相対的に見てまた地盤沈下するんじゃないかとか、ほかのところはもっとよくなるのに、自分はそこでまた取り残されてしまうんじゃないかというところがあるから、まだまだてこ入れしてほしいということをおっしゃっているのかなという気がいたしました。そこら辺が、私は一瞬見たときに、矛盾があるんじゃないかなと思ったことです。これが１つ目のコメントです。

【安島部会長】　　アンケートのやり方ということですね。

【中嶋委員】　　それから２つ目が、この半島対策と一般的な過疎対策との違いは一体何なのかということが、ちょっと気になりまして、できた当初は半島自身の特殊な問題があるから、それについての特別な立法措置なり制度というものが必要だということなんですが、先ほど言ったように、もしある程度対策として成功して安定したならば、一般的な過疎対策でもできるんじゃないかという議論になりかねないわけですね。

そう考えたときに、半島地域というのは一体どういう特徴があるのかということを改めて、私自身は知りたいなと思います。私は農業が専門なものですから、農山村ぐらいしか見ていないんですが、そのとき見るポイントは条件不利性と、扱っている地域資源が一体何かということです。それによってかなり特徴が変わってくると思いますけれども、先ほど行政コストは非常にかかるというお話をされたのは、地域資源の維持管理がかなり難しくなっているというところが非常に大きいでしょうが、私自身、半島が持っている条件不利性と地域資源というのは、ほかの農山村とはかなり違うんじゃないかという予想があります。

そのときに、やはり海があるということがとても大きな問題で、場合によっては大いなる資産になる場合もあるし、ある場合には重荷になる場合があると。ほかの過疎地も条件不利地域も、地域資源そのものが昔は資産だったのが、だんだん収益を生まない無駄なものになって、でも維持管理はし続けなきゃいけないから、それが重荷になっているというのがほとんどのところなんじゃないかと思うんですけれども、この海の部分がどうなのかということが、今日の資料だと私はあまり理解できなかったんですね。そこは事務局へのお願いなんですけれども、海の問題と、それから水産業のことについての議論が、乏しいんじゃないか、そこら辺、政策の評価とか将来を考える上では、一つポイントになるんじゃないかなという気がいたしました。

【安島部会長】　　ありがとうございます。これから、また半島の条件不利性についてはもう一度議論したいと思います。これは、前から半島の条件不利というものがあってつくられたんですが、特に震災の後、津波が来るみたいなものが３．１１の後に加わったということは、今あるのかなと思っております。

若林委員、いかがですか。

【仁坂委員代理（若林）】　　今、部会長さんがおっしゃられたように、津波ですよね。紀伊半島の場合、目の前に南海トラフがございまして、それで、今年の３月に南海トラフの

地震の影響が発表あったんですけれども、それまでは東海・東南海・南海地震に対応した対策をずっと考えていたんです。それで一応、本州最南端と言われる串本には１０メートルぐらいの津波が来るだろうと。これは１０分ぐらいで来るんですけれども、来るだろうと言われていた。ところが、３月に発表されたデータによると、今度は１０００年か何年に一遍ぐらいの地震なんで、１８メートルの高さに変わると。どんどん話が大きくなってきまして、これをどうするかって、おっしゃるとおり、半島というのは三方を海に囲まれていますので、そのことだけが一番重要になってきていると。

で、それに対応する答えというのが、何か知らないけど、このデータにもよく出ているんですけれども、市町村からのアンケートが出ているんですが、道路の整備につながっていくんです、リダンダンシーということで。半島というのは山がちなので、道路が常に海岸線上にありますので、これが津波にやられてしまうとどうするのかというと、山の中を通っている高速道路とか、リダンダンシーの問題になってきて、そういうのが欲しいと。だから皆さん、高速道路が欲しいとか基幹的な道路が欲しいというのは、非常に行政の立場としては、よくわかるなというのが私の感想です。

【安島部会長】　どうもありがとうございました。

【田中委員】　三方を海に囲まれているというのは、実は海岸線が長いんです。江田島市なんかは島ですけれども、全部が海岸じゃない。そこへ人が３人住んでおっても、先生、海岸防災でコンクリでそれを守らなきゃいけないのですよ。非常にコストが高い。当然そうすると、道も一緒に改良しなければいけないということがあって、道路、道路と言うのは、高速道路をピュッと通してくれという話じゃなしに、生活道路を改良してくれという、非常に海岸線が長いということが、維持管理のためのコストがかかるということで。中嶋先生が、私は農業だと言うけれども、山の中の畑がたくさんあるところは全然、ものすごく高いんですよ、海岸線を守るというのは。

【岡部委員】　他方、歴史的には海岸線が長いことで、人が住み着きやすかったわけですよね。

【田中委員】　昔は……。

【岡部委員】　海に開かれているということで。

【田中委員】　昔は近いところから、海水浴でも来てくれたんですよね。最近は高速道路ができて、海水浴なんか、もっと景色のいいところとか海岸、水のきれいなところへ。

【岡部委員】　それで、さっき……。ごめんなさい、時間がない。

【安島部会長】　　すいません。時間がもう実は過ぎておりまして、まだ皆さん、おっしゃりたいことがあると思いますがが、ごく手短に要点だけをお話しいただきたい。申しわけございません。

【原田委員】　　ちょっと、皆さんの議論には参加しましたが、自分の意見を１回もしゃべっていないんで。

さっき金子さんが前向きな発言をされたので安心しましたけれども、今日のはとにかく昭和６０年、１９８５年に決めた基準に照らしてどうかというのが、過去を振り返るような後ろ向きの証明問題でやっているので、あまりおもしろくない感じになっていますよね。で、今回の主な論点で４つ挙げていて、下の２つはやや新し目のものが出ているけれども、今日の議論だともう一つ、前から出ている地域のビジョンというか、自慢できる半島地域をつくるためにはどうするかみたいなものが、あまりうまく拾われていないなという気はしました。

今回、３０年たっての改定ですよね。これだと、今までの基準のままで置いておいて、わかりませんけど戦略として置いておいて、何かその中で新しいことを少し入れていこうというふうにもとれてしまって、そうではないだろうと思うんですけれども、先ほどから言った半島地域のよさとかをきちっとやり、ビジョンを立て、でもそれは全体に共通するようなビジョンではなくて、半島地域それぞれのものがあると思うんです。だから、指標も共通のものではなくて、それぞれのところのものでいいと思うんですけれども、そういうものをちゃんと立てて、大きく変えるという方向で、前向きなまとめでやっていただきたいということで。

で、「半島のじかん」、あれは僕は出られなかったんですが、いろいろなよい例とか何かもあるので、そういうものを示してほしいし、指標といっても、ジオパークとか世界農業遺産とか何かのやつのは、例えば交流というようなことを言っているので、ここは頑張ってそれに関連するような、交流人口とか物の売上げでも何でもいいんだけれども、何か指標をとれないかとか、少し具体的に方向性が見えている、さっきの孤立地域支援は多分、通院ができるとかできないとか、そういうのが入っていると思うんですが、そういうのも指標をとろうと思えばとれますよね。その辺のとれるものについてはきっちりととって、示してもらいたいなと思いました。

それから、先ほどの資料の４の後ろのほうだと、先っぽのほうがよくなっているという指標が、最後のほうの９番とか１０番とか１１番とか、いくつかあるんですよね。それは

多分、特徴的なところがあって、それで頑張っている事例があると思うので、それもちゃんと忘れないように拾ってもらったほうがいいかなと思います。基本的には皆さんとほとんど方向性は同じなので、それだけです。

【安島部会長】　　ありがとうございました。

何かございますか。一言もしあれば。

【岡部委員】　　いや、いいです。

【安島部会長】　　よろしいですか。申しわけございません。

いろいろもう少し突っ込んだお話はしたいんですが、時間が来てしまいました。頭出しはいろいろできたかなと思いますので、これに基づいて議論を深めていきたいと思っております。

それでは、次回の部会に向けて、事務局で少し今後の方向性についてご検討をお願いしたいと思いますが、議事次第のその他につきまして、事務局で資料が用意してあるようでございますので、順次ご説明いただきたいと思います。

【金子半島振興室長】　　事務局の説明が長かった関係もあって、時間が不十分になりましたことをお詫びいたします。

その他ということで、いくつか報告的な事項がございますので、説明させていただきます。まず資料６でございますが、これは過去２回の議事の概要でございますので、説明は省略させていただきます。

次に、資料７でございますが、これは今年度の半島振興関係の予算の状況でございます。関係省庁の予算について取りまとめたものでございます。国土交通省につきましては、道路、治水、海岸、都市公園、下水道、住宅、空港、港湾、それから地域の公共交通の確保、観光といった点について、それぞれ予算を計上しております。総務省につきましては、辺地債、過疎債という地方債の発行という部分、それから携帯電話のエリアですとか、地デジへの円滑な移行とか、超高速ブロードバンドの整備といったものについての予算を計上しております。農水省につきましては、施設の整備、多面的機能の発揮、担い手の確保、基盤整備といったものに省の予算を計上しております。厚生労働省につきましては、水道施設の整備に予算を計上しております。環境省については、循環型社会の形成のための交付金が計上されております。いろいろ金額も書いておりますけれども、これらは半島地域分としての明確な区分ができないので、全国値ということでご覧いただければと思います。

次、資料８でございますが、これは半島振興室、私どもの室が今年度予定している調査

の概要でございます。予算額４,０００万円をもちまして、半島地域の担い手の形成のための支援ですとか、半島間の連携によって自立的な発展をする活動の支援ですとか、半島地域の中での産業をどのように作っていくかという点についての研究、そして当然、地域の現況の分析といったもの、その４本立てで調査を行い、これから明るい面も含めて、どういったビジョンでいくかということについて議論していただく上での審議にも反映していきたいと考えております。

最後、資料９でございますが、半島地域の関係の税制度に今回、かなり改正がございましたので、その内容の説明をさせていただきます。もともと半島地域の税制としては、いわゆる事業者が工業用機械を導入した際の特別償却という制度がございました。その内容が今年度、拡充されているということでございます。

主な変更点は次のページでございますけれども、１つは、中小事業者に対する要件緩和がございました。従来、取得価額が２,０００万円以上のものというふうに、かなり高めの下限額が設定されていた感もあったんですが、それを資本金の規模に応じて、一番低い資本金１,０００万円以下の事業者については５００万円以上の取得であれば対象とするという形で下限額が引き下げられております。また、対象の資産とか対象の業種についても拡大したということがございます。

それから、対象の地区についてなんですが、もともとの制度は半島振興地域であれば税制が受けられるという形だったのですが、それを市町村による産業振興策により資する措置として使っていただくために、事前に市町村長が産業に関する計画を策定して、そういった地域について国土交通省、総務省、農水省の３省が対象地区であるという告示をすることによって、対象となるというように変わりました。その告示については先月末、５月３１日に半島の２７の市町村を告示いたしたところでございまして、引き続き各市町村での計画策定をいただいて、順次告示していきたいと考えております。

事務局からの説明は以上でございます。

【安島部会長】　　ありがとうございます。

何かご質問ございますか。

それでは、もしございませんようでしたら、本日の議事は以上といたしたいと思います。ちょっと進行がまずくて、もう少しいろいろご発言いただきたい方もいらっしゃったと思うんですが、申しわけございませんでした。大変いろいろ熱心にご議論いただきまして、まことにありがとうございました。

それでは、進行を事務局にお返しいたします。

【長崎地方振興課長】　　安島部会長、ありがとうございました。

最後に連絡事項を３点だけ申し上げたいと思います。まず、次回の部会ですが、こちらの作業状況も見ながら、秋ごろ、１０月か１１月ごろに改めて日程調整の上、決定してご案内したいと思いますので、よろしくお願いいたします。

それから２点目で、本日の議事の概要、ちょうど先ほどの資料６程度の内容につきましては、早急にホームページに公表したいと考えておりますが、議事録につきましては、各委員の皆様にご確認いただいた上で公表することとしたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それから３点目、本日の資料、大部になっておりますので、机の上に置いておいていただければ、後でお送りいたしますので、そのまま置いておいてお帰りいただいても結構でございます。よろしくお願いいたします。

それでは、以上をもちまして本日の会議を終了いたします。長時間にわたり貴重なご意見を賜りまして、まことにありがとうございました。

――　了　――